

特別研修

月例研究会 議事録 (5 月)

2007 年度 第 2 回

報告題名 農業保護主義が自由貿易協定戦略に与える影響 –韓国 FTA 締結構造の分析–

報告者 福田竜一

日時 5月24日 午後3時～午後5時

(所属分野) 地域計画学

場所 第7講義室

座長 田中

議事録担当者 小山田、阿部、飯塚

出席者 米倉、冬木、川島、伊藤、齋藤、両角、木谷、大鎌、石井、佐藤(章)、朴、澁谷、鹿嶋、福田、水澤、小山田、佐藤(文)、田中、鈴木、西橋、飯塚、大森、紺野、高嶋、田口、デッフィ、村松(優)

報告要旨

WTO ドーハ交渉が行き詰まる中、韓国は農業保護主義的な立場を維持しながら FTA 締結を推進している。韓国は 2003 年から日本と FTA 交渉を開始した。2006 年にはアメリカと交渉を開始し、翌年 4 月にコメを除外した合意妥結に至った。さらに同年 5 月には EU との FTA 交渉を開始し、中国との交渉にも意欲的である。日、米、中、EU で韓国の貿易額の約 6 割をカバーしており、韓国の FTA 戦略は正念場を迎えている。本報告では、韓国とこれら 4 大貿易相手国との FTA 締結の可能性を韓国 FTA の締結構造の視点から検討する。分析の結果、関税を完全撤廃して FTA を締結する場合、4 大貿易相手国全てと FTA 締結が可能であることが示されたが、仮に農業保護主義的な原則を貫き、最重要品目であるコメを除外して FTA を締結する場合、関税撤廃の不徹底さ等に起因する不効率性に加え、韓国にとってメリットが最も大きい韓中 FTA の締結が困難になるなどの影響があること等を明らかにした。

質疑・応答

報告者：D2 福田竜一 担当：M1 飯塚聖司

木谷：韓国を中心に考えているか、他の国から見たときの締結について考えられていない。

基本的に韓国の利益に影響するような働きを見て締結しているのか。

福田：厳密に言うと、選び方が韓国を中心になった。後半では、中国を引き入れるために日本とアメリカのどっちがどう違うのかということで分析した。

完全撤廃ならば日本のほうが中国を引き入れることが出来るという意味で、韓国にとってアメリカよりもよいといえる。しかし、コメを除外するとどちらも締結できない。

木谷：展開系ゲームとして見て、どういう順番で締結していくかという点は考えられていないか。

福田：締結したということを考慮されていない。ひとつずつ締結したわけではない。2期間での分析であって、締結していない状態から次にどの締結構造を選ぶかという形になっているわけではない。

木谷：国々が対等になっているわけではない。例えば韓国と日本が政治的に仲が悪い。そういった要素は入らないか。何かパラメータを入れてみてはどうか。

福田：ゲーム理論の分析では何を利得とすべきかが極めて重要である。もしそれが出来ればより現実的な分析結果となるだろう。

伊藤：1. 利得をどうやって出したか。大国・小国によって違いがあると思うが、計算の中でどう処理したのか。

2. 類似の研究と比較してどういった違いがあるか。韓国でも行われているのでは。

3. 米韓 FTA 交渉においてなぜ韓国は利得を減少させてまで米を保護したのか。

福田：1. 輸入量が増えれば国際価格は変化する。輸入量の大きさによって国際価格の変化の大きさに違いがある。財の集計レベルによって算出される利得にバイアスがかからないように最も詳細な財の区分で分析を実施した。

2. 韓国でも KIEP や KREI などの政府研究機関で試算、分析が行われているが、モデルの条件や仮定を変えることで FTA のメリットは違ってくるので、政府機関による試算結果は恣意的な面があることは否定できない。

本研究では、ニュートラルな立場から、FTA 締結効果を関税撤廃効果のみとして、分析を行った。

3. コメを除外しなければ米韓 FTA は締結できなかっただろう。米韓両国は交渉決裂よりもコメを除外してでも締結することを選んだ。FTA には単に経済的効果をもたらす以上の締結メリットがあるということであろう。

米倉：韓国がある順番でいけばすべての国と締結することが出来るということか。

福田：そういう構造があるということを言いたかった。ただし、コメを除外すると締結が難しくなる構造でもある。

米倉：複数の国が戦略をもって臨んだときの、ナッシュ均衡的なものはあるのか。

福田：韓中を含む3カ国の枠組みで提携ゲームを行った場合の試算を行った。

米倉：ここでの分析では、FTA 締結前の価格で評価したとき締結できるかということか。

福田：締結していない状態から、締結する可能性だけを示して、どんな締結構造が選ばれるかということをやっている。比較静的な二期間の分析である。

米倉：価格レートの変動などを入れていない分析ということか。それでは現実的な説明力は疑問である。